

代の社会学を学ぶものからみれば、Weberは当然第一人者として顧みられるべきであることは不思議ではないが、当時の知的世界の雰囲気はそうではなかったというべきである。T. Parsonsの *The Structure of Social Action* (1937) が戦後の学界を風靡したのもこうした事情によると考えるべきである。本稿の目的はドイツと他のヨーロッパ諸国との学界の支流を明かにすることは目的ではないから、この点の考察は一応ここで止めることにする。

IV

社会学年報はデュルケームの死後戦争から立ち直る時期に Mauss がデュルケームの後をうけて第二輯の刊行をつづけた。この時期になって、協力者 Maurice Halbwachs の活動によって Weber に対する見直しをはじめ民族学的方面の領域もその文献批判の対象に拡大していった。Mauss の有名な著作 *Le Don* はこの第二巻の最も重要な著作となるようになり、新しい方向を示し出したが、何分にも戦争によって協力者を失うと同時に協力者も高齢化によって活動もかつての活気を失っていったので、これは第二巻で休業のやむなきに至ったのであるが、やっぱり最初のリーダーであったデュルケームの時期尚早の死による損失は極めて大きなものがあったのである。そしてリーダーの死去に伴いリーダーの活動に対する非難も強くなっていった。そうした一つの非難はフランス社会学派に対してあらゆる方面に年報への協力者の枠を拡大していったことに対して帝国主義的であるというものである。このことに関しては Philippe Steiner の近著“*La sociologie de Durkheim*”において Steiner は次のようにべている⁴¹⁾。この帝国主義という非難はいつはじまったのか、筆者には明かにできない点であるが、すでに昭和の10年前後筆者が大学の社会学科の学生時代にも誰の著作からか誰の説からかは知

らないが、そういう声があったことは聞いた記憶がある。Steiner はデュルケームがこの年報刊行の期間にたえず他の隣接諸学科との接近を拡めていた時代にしばしば起ったと⁴²⁾のべている。そして Steiner は Ph. Besnard を援用して後者がこの非難の生れたのはこの年報において、デュルケームが人類学⁴³⁾や宗教史、法律史等々の成果について文献の批判、紹介などにふれていること、特にその中、第一巻と第二巻の序文で明かにした歴史科学の成果にとくに力をいれるという意味の発言が大きくひびいているようであるとのべていることをとりあげている。Besnard の指摘は1886年刊の *Historiens et sociologues aujourd'hui* の中の論文“*l'impérialisme sociologique face à l'Histoire*”の中で行われているようである。不幸にしてこの論文を掲載した著書を筆者は直接よんでいないが Besnard が1983年編著として刊行した *Sociological Domaine* 中の論文“*The Année Sociologique Team*”に中でのべていること大同小異であるから、以下においてこの問題に関してこの論文に準拠することにしたい。Besnard はこの論文の中でデュルケームがこの年報の刊行を決意した彼独自のものでなく、Bouglé などの人びとからの強い要求もあったこと、そしてデュルケームはそうした人ひとりの強い支援の下に年報の刊行を Paris の Alcan Felix 社とあたり、その応諾を得たことを報じている⁴⁴⁾。Besnard は社会学報の *Année* は直接にはこれより少し前に刊行された *Année Psychologique* の名前にヒントを得たのであるが、それより前すでに *Revue de Moral et de Métaphysique* に掲載された刊行の前年度の社会学の刊行物の批判的紹介の試みられていた項目 (Fr. Simiand などが担当する) をもつと拡大したものである。だからこれが最初から計画的に人的組織をもち、刊行したものではなかったし、また協力者間の関係も統一的に組織されたものではなかったことは明かである。そして年報チームの分担、組織も計画的に行われたより

41) Philippe Steiner, *La sociologie de Durkheim* (1994) p. 99

42) *ibid.*,

43) この人類学は今日でいう文化人類学を特に意味している。ヨーロッパの言葉では民族学にあたると思われる。

44) Philippe Besnard, 'The Année Sociologique Team' in *The Sociological Domain* (1983) p. 15.